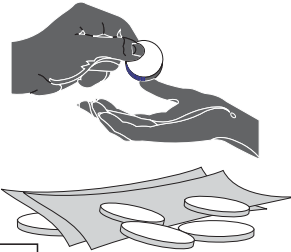


インフォメーション

地域通貨懇談会準備会

7/18の第2回準備会ビデオ学習会その1と意見交換を実施。
 内容：ビデオ鑑賞「エンデの遺言」と話し合い- 上映会の感想と地域通貨に何を期待するか) 参加者は6名、それぞれの思いを出し合いました。どんな形の地域通貨にするのかによって地域への広がりも違ってきます。もう少し情報を集めながら考えていくことにしました。関心のある方は、いつからでもどなたでも準備会にどしどしご参加ください。



第3回準備会、学習会その2

日時：2002年8月29日(木) 1時から2時30分
 会場：調布市総合福祉センター2階 ボランティア活動室
 内容：ビデオ学習その2「エンデの警鐘- 1」50分
 その後、意見交換

*メーリングリストを開設し情報交換しています。
 問合せは：
kpsy-otj@asahinet.or.jp へ



第2回 午後のティーサロン

～音楽と映画への語り～ への誘い

☆過ぎし日々、忘れてしまった時をもう一度再現してくれる音楽とビデオによる映画を、お茶を飲みながら楽しみ語り合うサロンです。今回は、マリリン・モンローを取り上げます。興味のある方は、是非、お立ち寄りください。

相互塾～午後のティーサロンは、調布まちづくりの会が主催する「おしゃべりサロン相互塾」のなかからうまれました。

日時 / 10 / 13 (日)
 14:00～16:30

場所 / シャローム(国領駅裏)国領町3-10-14
 TEL&FAX : 0424-90-3773

茶菓代 / 500円 定員 / 40人(申込順)
 申込先 / TEL 83-9993(森下)

まちのバリアフリー部会

今年度から活動することになりました「まちのバリアフリー部会」の活動をご紹介します。

当部会は、京王線連続立体交差事業にともなう調布駅周辺地区のまちづくりをバリアフリーという視点から広く意見を交換し合い、住民の声をまちづくり行政に反映させることを目的として立ち上げました。あまり調布駅周辺に限定しないで、調布のまち全体を視野にいれながら、既成のバリアフリーマニュアルの枠を超えた、あらゆる人が当たり前街で行動できるユニバーサルデザインとしての都市施設の在り方や、ソフトバリアフリーという考え方についても話し合っています。話し合う場合は、広く参加して頂く為に、実際に会って話し合う会合の場とインターネットを利用して意見を交換する場があります。

会合の場は毎月第一水曜日午後5:50～6:50調布市総合福祉センター2階 団体室です。

インターネット上の意見交換の場は
<http://isweb44.infoseek.co.jp/area/mbarrier/>です

編集後記

夏号をお届けします。
 今号から高森さんが助人をつとめて下さっています。感想と投稿をお待ちしています。(江刺)



調布まち会だより

国領駅北口



画：沖崎

No.9 2002夏号

発行：特定非営利活動法人調布まちづくりの会 / 郵便振込口座：00150-1-136749
 〒182-0024 東京都調布市布田1-49-8 飯寄ビル302
 TEL&FAX: 0424-88-4022
<http://www.fukuda.is.uec.ac.jp/cmm/index.htm> mail:machikai@is.uec.ac.jp

第2回 (調布市後援) 調布不思議発見



写真作品コンテスト

写真募集中!

2001年2月につづき、第2回調布不思議発見作品展を企画しました。

調布のまちをテーマに、不思議なものやオッチングにでかけてみませんか?そして、アレッと驚くもの、ニヤッとするもの、妙なものはは～んと納得するものなど、何でもOK。そんなところを見つけてカメラに納めてください。

A4の台紙に作品を貼ってどしどし応募してください。お待ちしております。

作・品・受・付

場所：ちょうふだぞう 1F喫茶 (布田2-29-1)

日時：8/25(日)～8/27(火)
 2時～5時

問合せ：88-4022 / 夜間：83-9993 (森下まで)

★展示会開催★

日時
 8/31～9/2

場所
 調布市文化会館たづくり
 11階みんなの広場

会員募集中

特定非営利活動法人
 調布まちづくりの会

定例会

日時 / 毎月第1水曜日
 1900-2100
 場所 / 総合福祉会館2階団体室

調布まちづくりの会は、『市民の手でまちづくりを』という思いの市民なら誰でも参加できる開かれた自主グループです。1994年～1996年に市民参加で策定された「住み続けたい線につまめるまち調布 調布市都市計画マスタープラン」づくりへの参加をきっかけに1996年に発足。足。2000年4月には、特定非営利活動法人として新たにスタートし、まち歩きや景観シンポジウムの企画運営などを通して「住み続けたいまち」実現に向け、提言・調査研究・情報提供を行っています。

おしゃべりサロン『相互塾』部会

5月27日(第28回) 「深大寺の今昔と蕎麦談義」

語り手：嶋田家店主・嶋田太郎さん

資料の充実していたことは、大変なものでした。深大寺周辺の浮世絵のカラーコピーと深大寺音頭の10番(13番までであるらしい)までの歌詞、嶋田さんの経験を基にした人生観に関わる言葉群、深大寺に蕎麦やさんを始める頃の話、などが分かる資料群でした。

明治25年の村の命名が神代村になった経緯、深大寺周辺に蕎麦やさんが集まった経緯等が紹介されたが、関東でこんなに広がった例はないらしい。【理由】としては、1. 植物園のあとがそばの栽培に良かった。良質のそば粉ができ、何度か賞を取った。2. さらし水が良かった。湧水でさらして、こしを強くした。これは深大寺そばの特色でこれが評判をよんだのでしょう。

嶋田家さんの蕎麦談義は、蕎麦やさん創業の頃の話から、そば粉の仕入先が青森などの国内であること、つなぎの必要性、そばには“てり”とか“つや”がある。そばは、熱や電気が嫌い、ゆっくり作っているのは駄目で、その日によって違う。作っている最中に今日のは出来が良いと思う人が分り、そのときは食べて欲しいと思う人に食べてもらいたくなる。など面白いお話が続きました。また、深大寺音頭は嶋田さんが自らお唄になり、それを切っ掛けに全員で唄うことになりました。次の盆踊りが楽しみです。

出席者は40人(内まちづくりの会会員は7人)：

相互塾 今後の予定

第3回

8/26日)「水耕栽培のルーツは調布にあった？」
pm13:30-16:00 調布市文化会館たづくり9階 研修室
調布市市民参加推進室男女共同参画推進係と共催(定員40名)

申込先：8 1-7 6 2 6 (男女共同参画推進係)

●第32回

9/30月)「海外旅行談義」
19:00-21:00総合福祉センター

中高年パソコンのときの41人の次に多かった。今回は、最後の30分を紅茶を出してフリーの懇談の時間を設けました。初の試みで好評だったと思います。機会があれば、再度試みたい。【後日、嶋田さんにわざわざそばの種を持参いただきました。6月の相互塾の参加者に差し上げました。嶋田さんのお心、ありがたいことです】

6月2日(第2回) 「自分で作る ガーデンのための基礎知識」

語り手：石川清美さん

石川さんがイギリスに行かれて、いろんな庭に巡り合い、刺激を受け、庭のデザイナーになられた話から始まりました。仕事としてやられた住宅の庭のデザインから、定点で時間の経過も含めて、庭の変化を写真で見せていただきましたが楽しいものでした。最後には、ご自分の庭について、どうしてそのようにしたかを、やはり、写真を基に説明された。会場からも、ご自分の庭を中心に、困っている話などを熱心に質問があり、石川さんも熱心に、終わった後も個別に、答えておられた。まちづくりの会会員である石川さんの人生観もうかがわれる例会になりました。

出席者は22人(内まちづくりの会会員は6人)でした。最後のフリーの懇談の時間は、お茶が出なかった為か、机の片付けが終ると退室してしまう人が多かった。お茶は必要のようだ。以上です。また、参加して下さい。よろしく。

第3回

10/28月)「若手商人塾と布田界隈」
19:00-21:00総合福祉センター

第34回

11/25月)「手書き回覧板から始まる」
19:00-21:00総合福祉センター

第35回

12/16月)「このままではあなたの資産が消滅する」
19:00-21:00総合福祉センター

お問い合わせは、83-9993(森下)まで

まちづくり交差点



昨年(2001)5月から始まったIT講習会とフォローアップ講習会が3月で一段落しました。参加したパソコンボランティアは50~60才代の主婦や退職者が中心でしたが、途中初めての赤ちゃんを出産した若い母さんや高校生、現役のサラリーマンや自営業者なども参加。総勢52名でのサポート活動でした。講習会の打上げ会では「多少でも立ててよかったです」「いろいろ勉強させて頂きました」「最大の収穫は大勢のすばらしい方たちに出会えたこと」などの感想が聞かれ、皆さんが、参加した喜びと多少の誇りを感じているようでした。

活動の中心になったのは調布パソコンサークル(略称CPC、3月末の会員数38名)ですが、調布まちづくりの会の小さなパソコン教室がその発端であったことを知っている人は少ないでしょう。

平成10年の暮、「パソコン嫌いのためのパソコン教室」と称する講習会が開かれました。まち会会員が数名ずつ先生になり生徒になって、急ごしらえの資料を使って勉強したものです。市民が市民にパソコンを教えることの「よさ」がこのとき実証されたのだと思います。

CPCでは①高齢者など、身体的な弱者ほどパソコンを必要とする時代が始まった。②それなのに、高齢者ほどパソコンから遠い位置にいる。(若い頃パソコンはなかったし、今パソコン教室に通っても若い人のペースに付いていけない)と云う状況になっていると考え、ボランティアなら、高齢者に適した形でパソコン学習を支援できる。そして、学校の空き時間にパソコン教室を利用できるならば学校解放上も望ましい、と考え、中学校の施設を借りてパソコン講習会を始めたものです。

「やってみよう、はじめてのパソコンー中高

年のための初心者パソコン教室」は、こうして平成12年2月に市立六中の教室を借り、調布市教育委員会との共催でスタートしました。

またその後、13年1月には修了者対象の会員制「パソまるクラブ」を調布郵便局やパソコンメーカーの協力を頂いて発足させ、個別相談指導を行っています。登録会員は現在約130名で、毎週木曜日の会場は30~40名の人でごった返しています。平成13年度は国の施策で登場したIT講習会の支援に注力しましたが、講習修了者のためのフォローアップ講習もcpcと市民ボランティアの自主活動として実施し、1000名以上の受講者を受け入れました。

14年度の活動計画は、最初にやったような中高年向け講習会や自分たちの勉強会など、もっと自主的な活動を復活させる方向になるでしょう。文化活動

面でもっと学校解放を進める動きとも協力して行きたいと思います。人に役立つ喜びとやり甲斐、向上心、出会いの楽しみや社会とのつながり、色々なものを求めて、今年も元気にやっています。

(調布パソコンサークル代表：矢嶋崇志)



フォローアップ講習には大勢のボランティアが参加